

日本音楽教育学会 第8回夏季ワークショップ in 野沢温泉

地域連携型・新しいワークショップの試み

—音楽の学びの未来をひらく—

プログラム

会期：2017年8月29日（火）～30日（水）

プレ企画：2017年8月28日（水）

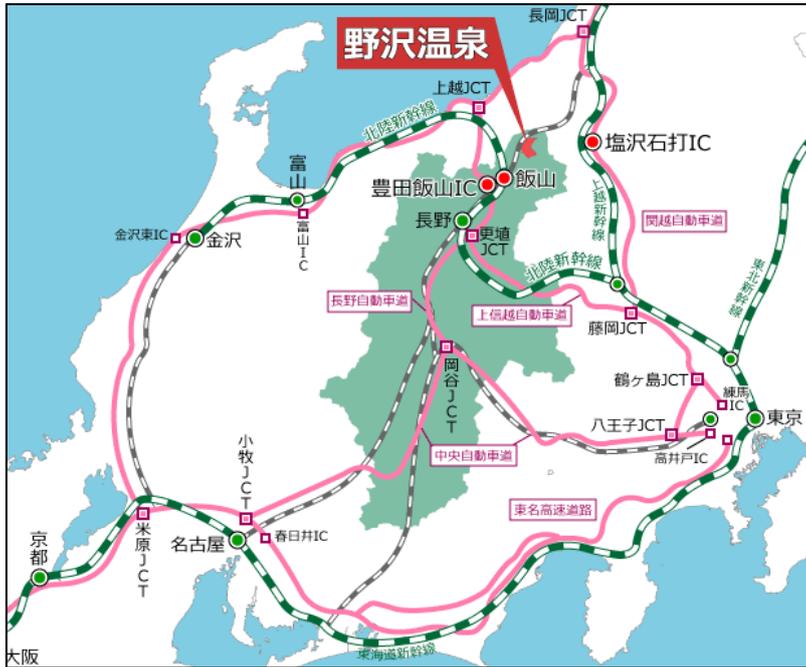
主催：日本音楽教育学会

後援：野沢温泉村教育委員会 長野県音楽教育学会 長野認定こども園協会

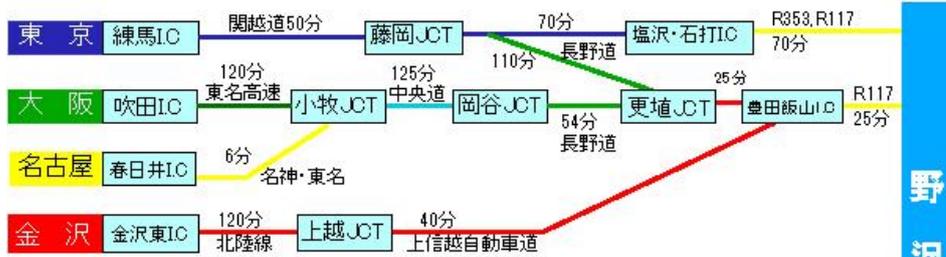
◆目次

1. 目次.....	2
2. アクセス情報.....	3
3. スケジュール.....	4
4. ご参加の皆様へお願い.....	5
5. 現地マップ.....	6
6. プレ企画：オペラ公演：《あまんじゃくとうりこひめ》.....	7
7. ワークショップ：アフリカン・リズム.....	8
8. セミナー・ワークショップ：五線譜にかわる選択肢 —「フィギュアノート」を知る—.....	9
9. ラウンドテーブル：養成校における領域「表現」の授業を考える.....	10
10. 懇親会 アイルランド音楽とダンスの夕べ.....	11
11. ワークショップ：掛け合い歌であそぼう.....	12
12. ワークショップ：音声分析勉強会.....	13
13. ラウンドテーブル：学会誌に投稿しよう！その前に….....	14

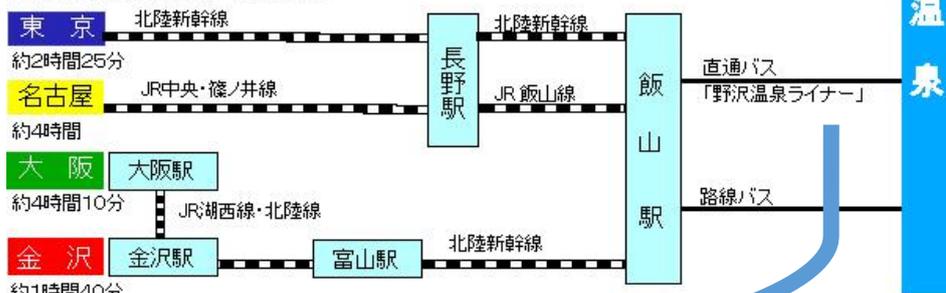
◆アクセス情報



○お車でお越しの方 By Car



○電車でお越しの方 By train



直通バス 野沢温泉ライナー
平成29年7月1日～平成29年12月中旬

野沢温泉 ⇄ JR飯山駅

▶ **野沢温泉発**
6:30/7:40/8:40/9:40/11:10
12:50/14:20/16:50/18:20/19:35

▶ **飯山駅発**
8:45/10:00/10:50/12:30/13:30
15:15/17:25/18:55/20:10/21:15

《料金》 大人**600円** 小人**300円**

◇詳細については

お車の場合↓

<http://www.nozawakanko.jp/access/bycar.php>

電車の場合↓

<http://www.nozawakanko.jp/access/bytrain.php>

をご参照ください。

◆スケジュール

	午前		昼休み		午後		夜
プレ企画 8月28日 (月)	(非公開 こども園でのプレワーク)				13:15~14:30 子どもたち参加によるオペラ公演 《あまんじゃくとうりこひめ》 (こども園ホール/公開) <u>受付時間: 13:00-13:30</u>		ゆったりおへどうぞ
第1日目 8月29日 (火)	9:55~10:45 ワークショップ アフリカン・リズム (中学校体育館) <u>受付時間: 9:15-9:45</u>	10:55~12:00 参加者の振り返りと 意見交換	昼食 弁当	13:00-13:20 「野沢温泉村の一貫教育」 野沢温泉村教育長 岩上 芳宗先生 (公民館)	13:30~15:30 セミナー・ワークショップ 五線譜にかわる選択肢-フィギュアノートを知る- (公民館)	17:00~19:00 懇親会 (夕食付) アイルランド音楽と ダンスの夕べ (おぼろ月夜の館)	
	28日の公演、プレワークの映像視聴 (公民館) おぼろ月夜の館の自由見学など				13:30~15:30 ラウンドテーブル 養成校における領域「表現」の授業を考える (公民館)		
第2日目 8月30日 (水)	9:40~10:25 ワークショップ 掛け合い歌であそぼう (小学校プレイルーム) <u>受付時間: 9:00-9:30</u>	10:35~11:30 参加者の振り返りと 意見交換	昼食 弁当		13:00~15:00 ワークショップ 音声分析勉強会 (公民館)		
	28日の公演、プレワークの映像視聴 (公民館) おぼろ月夜の館の自由見学など				13:00~15:00 ラウンドテーブル 学会誌に投稿しよう!その前に・・・ (公民館)		

◆ご参加の皆様へお願い◆

- ・本プログラムの紙媒体での配布はいたしません。ご自身でプリントアウトされるか、現地でも各自ダウンロードできるようにしてください。
- ・こども園，小学校，中学校，公民館，いずれも土足でご入場いただくことができませんので，**室内履き**をご用意ください。
- ・こども園，小学校，中学校での写真・動画の撮影はできません。
- ・最初に参加されるセッションの受付において**参加証**（ネックストラップ）を受け取ってください。こども園，小学校，中学校，公民館，おぼろ月夜の館，それぞれの建物の入り口に受付場所を設けてあります。
- ・こども園，小学校，中学校のセッションは，安全面等に配慮し，受付時間を限定しています。受付時間は「**28日 こども園 13:00-13:30**」「**29日 中学校 9:15-9:45**」「**30日 小学校 9:00-9:30**」となっていますのでご注意ください。
- ・お車でお越しの場合，「**公民館上駐車場**」「**横落駐車場**」（いずれも無料）の2箇所をご利用ください。各会場（こども園，小学校，中学校，公民館，おぼろ月夜の館）には駐車できませんのでご注意ください。

《各施設のご利用について》

外湯

温泉街に十三の外湯が点在しています。江戸時代から湯仲間という制度によって守られてきた天然温泉 100%かけ流しです。利用時間は 5:00～23:00，利用料金は「各外湯にある賽銭箱にちよっぴりお気持ちを」。

以下の施設は，本ワークショップの「参加証」を提示すると2割引で利用することができます

麻釜温泉公園 ふるさとの湯 入館料 500円→400円／開館 10:00～20:00（入館は 19:30 まで）
内湯（あつ湯／ぬる湯）・露天風呂・シャワーブースあり

野沢温泉スパリーナ 入館料 700→560円／開館 12:00～20:30（受付終了 20:00）
大浴場・水着着用展望露天風呂（源泉かけ流し）・大露天風呂・屋外プールなど
※8月30日（水）は**休館**ですのでご注意ください。

高野辰之記念 おぼろ月夜の館 入館料 300円→240円／開館 9:00～17:00（受付終了 16:30）
※8月28日（月）は**休館**ですのでご注意ください。

日本スキー博物館 入館料 300円→240円／開館 9:00～16:00（木曜休館）
詳しくは野沢温泉観光協会ホームページ <http://www.nozawaski.com/> をご覧ください。

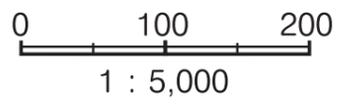
◇お問合せは，事前・当日とも，日本音楽教育学会事務局（権藤）宛，件名は「第8回夏季ワークショップ」でお願いします。 e-mail: onkyoiku★remus.dti.ne.jp

★を@に変更してメール送信してください。

日本音楽教育学会 第8回夏季ワークショップ

野沢温泉村内案内図

- 案内所
- 温泉
- 足湯
- 寺院
- 神社
- トイレ
- ガソリンスタンド
- 碑
- タクシー
- 病院・医院
- 交番・駐在所
- 郵便局
- 駐車場
- ATM
- バス停



子どもたち参加によるオペラ公演 《あまんじゃくとうりこひめ》

うりこひめ	市川恵 (早稲田大学)
ぼっさ・家来	小佐川心子 (立教女学院短期大学)
じっさ・殿様	加藤富美子 (東京音楽大学)
あまんじゃく	山口梨恵 (成蹊小学校)
打楽器	細谷晋 (多摩市立東寺方小学校)
打楽器	小井塚ななえ (東洋英和女学院大学)
ピアノ	石川眞佐江 (静岡大学)

1. はじめに

のざわこども園年長組の子どもたちと共に、オペラシアターこんにやく座・大石哲史氏の指導のもと稽古を積んだメンバーが、オペラ《あまんじゃくとうりこひめ》(林光作曲, 若林一郎台本, 1958年初演, 1987年出版)を演じる。本企画では、子どもたちの日常の遊びとの連続性を重視しながらオペラを上演することを試みており、子どもたちは、保育の中で少しずつ作品に触れるとともに、上演メンバーが実施したプレワークへの参加や日常の遊びを通して徐々に物語の世界に参入し、その延長としてオペラ上演に参加することを目指した。

2. オペラ上演に至る経緯

のざわこども園の保育教諭との討議のもと、まず事前の保育活動において、地域と関連の深い高野辰之作による『うりひめ』(1990年, おぼろ月夜の館班山文庫)の絵本の読み聞かせをおこなった。その後、オペラの台本をもとにした紙芝居を制作し、その読み聞かせ及び、年長児を対象にオペラへの参加形態につながるワークショップをおこなった。日常の遊びと連携させ、上演メンバーがプレワークで子どもとかかわる中で徐々に作品の世界に導いていくようなはたらきかけを行い、子どもが自然に作品に入っていくことを目指した。そして、子どもの遊びとオペラを創り上げるという作業をできる限り近

づけ、子どもたちの壮大なごっこ遊びと芸術作品の接点を探ってきた。

3. オペラ《あまんじゃくとうりこひめ》について

オペラ《あまんじゃくとうりこひめ》の原材は、うりから生まれたうりこひめが主人公の日本民話であり、〈瓜子姫子〉、〈瓜姫子〉、〈瓜子織姫〉、〈瓜子姫子と天の邪鬼〉、〈瓜姫子と天の邪鬼〉等の名で日本全国に広く分布している。話の展開は地方によって異なるが、機織りの得意なうりこひめが、じっさとぼっさが出かけている間にあまんじゃくにだまされて、連れ去られてしまい…というところまでは共通なようである。その後の展開は、本上演にご期待いただきたい。

本オペラは、8場面から構成され、上演所要時間およそ30分の小規模なものであり、登場人物は、うりこひめ(ソプラノ)、あまんじゃく(ソプラノ)、じっさ(バリトン)、ぼっさ(メゾ・ソプラノ)、とのさん(バリトン)及びけらい(テノール)の6名である。上演に際し、オーケストラではなく、ピアノによる場合には、ウッドブロック、スネア・ドラム、サスペンデッド・シンバル、バス・ドラムを併用することが望ましいとボーカル・スコアに記されており、本上演もこの形式による。

アフリカンリズムは、コミュニケーションツール

劇団四季ライオンキング初代パーカッション奏者に学ぶ、そのルーツ

ワークショップ・リーダー：BBモフラン

企画・進行：たたら康恵(音楽療法NPOムジカトゥッティ・明星大学)

協力：野沢温泉村立野沢温泉中学校

It'll happen to every living human all animal
fish bird...

There's a time for being happy and sorrow
But they love Nature and Sound of Nature
It can cure them when they're in dark
moment (モフラン)

**人生には喜び、悲しみがつきもの 誕生、婚礼、葬礼…
その場は音楽と共にある。**

**過酷な奴隷の歴史、差別の中からジャズやゴスペルを
生み出してきたアフリカンアメリカン**

**そのルーツはアフリカであり、とりわけモフランの母国コ
ンゴ民主共和国はリズムの宝庫と言われている。**

アフリカにおいて音楽はコミュニケーションのツールとして発展してきた歴史があり、“コール&レスポンス”が基盤となっている。リズムや歌のやり取りによって交流感や共生感が生まれる。参加は強制的ではなく、あくまでも身体が心地良さにまかせて自然に動き出すことによって促される。本ワークショップでは、ドラムを叩くことによる解放、達成よりも、お互いの連携、心地良さ、共感による**リズムの対話**を重要視している。楽譜を一切用いず、子どもから大人、高齢者、誰でも参加でき、リズムによって心がつながる。徐々にテンポアップすることで高揚感が生まれ、それを全員でシェアする。素手で叩くというシンプルな方法により、深く自分自身とつながりながら全体とつながる感覚を同時に感じることができる。これにより自己表現できず抑圧している感情や、周囲との連携が困難な状況が整理され、心身の活性化、意欲や創造性の向上がもたらされ、自尊感情が高められる。

欧米では早くからアフリカンドラムが着目され、ドラムサークルも発展してきた。ネイティブアフリカンのモフランが提示するリズムは大いなる自然に根差した、まさに**アフリカの鼓動**そのもの。筆者は2009年から協働し独自プログラムを開発、幼稚園から大学まで全国各地でアウトリーチを実施、東北大震災支援も2011.8から共に240回を重ねてきた。作編曲家であり、ナベサダとの共演のために招聘されたキーボード奏者、全国3,000校近いスクールコンサートを実施してきたリズムの化身モフラン、野沢温泉中学校の皆さんと音楽の喜びをシェアし、**Let's Groove!**

ジェンベ、ドゥンドゥン、サンヴァン、ケンケニ、トーキングドラムなどの楽器演奏、歌、ダンスなど、六ヶ国語を話すモフランが流暢な日本語で進めます。動きやすい服装でご参加ください。

【参加者の振り返りと意見交換】

コメンテーター：加藤富美子(東京音楽大学)

司会・進行：桐原礼(信州大学)

中学生のアフリカンリズム体験には、どのような学びがあるのでしょうか。ワークショップの中学生の様子をもとに、参加者の皆さんと意見交換をしたいと思います。

【お願い】

9時15分~9時45分受付(中学校入口)に、室内履きをご用意いただき、徒歩でお越しく下さい。写真・動画の撮影はお控えください。また、体育館の中はとても暑いので、飲み物を持参して水分補給に心掛けてください。

五線譜に代わる選択肢 「フィギュアノート」を知る

コーディネーター・司会進行：阪井 恵（明星大学）

ワークショップリーダー： 「フィギュアノート普及会 はぴみゅーず」メンバー

松田真奈美（代表理事・音楽療法）／ 片桐典子（竹早教員保育士養成所）・加藤万吏乃（慈恵医大）以上2名は日本音楽療法学会認定音楽療法士、青木正人（Pf 調律師）

情報提供： 廣瀬知栄（協力会員 フィギュアノート利用児保護者）

彦坂菜穂子（世田谷区弦巻小学校） 塚越泉（狛江市緑野小学校）

フィギュアノートアプリ開発：水戸和幸（電気通信大学）

音楽を専門的に学び、教育研究に携わっておられる皆様。お力を借りたい事情があって、このセミナー・ワークショップを企画しました。

聴いてください！

皆さんは多くの人と音楽の喜びをシェアしたいという気持ちで、日々のお仕事や研究をなさっていることと思います。義務教育の中の音楽も、心身が活性化され、友達と笑顔でかかわることのできる、みんなが楽しみにできるような時間であるといいなあ、と思っておられるはずです。

しかし！

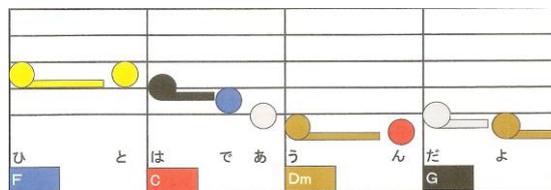
音楽の時間にとっても困っている、苦しい、先生にも分かってもらえず、このままだと音楽の時間はキライだ、という人がいます。その声を聴いてください。様々な、他人には分かりにくいタイプの障害が原因で、困り感・つらさが生まれています。

その中でも、五線譜を読み・使うことが難しい人に向けて、オプションとして使える「フィギュアノート」をご紹介しますのが、本セミナー・ワークショップです。



「フィギュアノート」は、色と形による楽譜。フィンランドで20年あまり前に開発され、日本では、東京都狛江市が特別支援教育に取り入れて成果を挙げました。しかしフィギュアノート利用を認めてほしいと切望される人がいるのに、今のところ、障害についてもフィギュアノートについても情報が行き渡らず、学校では理解が得られていません。

本セミナー・ワークショップでは、音楽の授業で非常に困り、フィギュアノートの使用を望む方の声を聴き、同時に、フィギュアノートとはどのようなものかを、体験してください。



音楽を学ぶ・音楽に親しむための、よりよい方法を考えておられる皆さんが、これを機にフィギュアノート普及の大応援団になってくださることを、切に願うものです。

（2タイプのフィギュアノート譜を例示しました。他にも色々なタイプがあります。）

養成校における領域「表現」の授業を考える

- 話題提供 吉永早苗（岡山県立大学） 今川恭子（聖心女子大学）
 指定討論 宮里暁美（文京区立お茶の水女子大学こども園） 吉越次子（のざわこども園）
 企画・進行 木村充子（桜美林大学） 杉原真晃（聖心女子大学）
 企画 小井塚ななえ（東洋英和女学院大学） 長井覚子（白梅学園短期大学）
 早川倫子（岡山大学） 村上康子（共立女子大学）

領域「表現」の授業を担当する保育者養成校の教員たちは、日頃どのような悩みや課題を抱えているだろうか。2016年に行った領域「表現」に該当する科目に関する調査¹では、調査対象となった首都圏56大学、59学科・専攻等のうち46学科・専攻等において、授業担当者の中に「音楽」を専門とする教員が含まれており、「音楽」以外を専門とする教員のみが授業担当者となっている学科・専攻等はわずか13という結果が得られた（表1）。

担当者の専門領域	学科・専攻等	担当者の専門領域	学科・専攻等
音楽のみ	11	音楽+造形	16
造形のみ	5	音楽+保育	1
身体のみ	1	音楽+造形+身体	14
劇のみ	4	音楽+造形+劇	2
保育のみ	3	音楽+造形+保育	2

表1：授業担当者の専門領域

領域「表現」の授業は音楽の専門性をもつ教員によって担当されることがいわば当たり前になっている現状の中、では、我々は実際に何をどのように教えればよいのだろうか。学生たちにどのような力を身につけさせたらよいのだろうか。

指針・要領改訂に伴い「育みたい資質・能力」・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が示された今、我々は、改めて、乳幼児期の経験と学びについて領域「表現」の観点から検討し、それに対応して保育者に求められる資質・能力について問い直すとともに、それらの資質・能力を育成するための養成校の教育について再検討することが必要であると考えている。そこで、養成校の教員たちのもつ様々

な課題を共有するとともに、保育現場の先生方からは、子どもたちの表現の育ちを支える保育者の専門性とは何か、養成校の教育に何が求められているのか、現場からの率直なご意見をお聞かせいただきたく、本ラウンドテーブルを企画した。

当日は、まず、吉永早苗会員（岡山県立大学）と今川恭子会員（聖心女子大学）が養成校における領域「表現」の授業実践を紹介する。続いて、保育現場からは養成校の教育に何が求められ期待されているのか、宮里暁美先生（文京区立お茶の水女子大学こども園園長）と吉越次子先生（のざわこども園）にお話いただく。また、参加者たちが日頃感じている疑問や悩み、課題を共有し、自由に情報交換、意見交換する時間をもちたいと考えている。

養成校の教員、保育現場の先生方はじめ、多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

養成校の教員の皆さま

領域「表現」の授業についての疑問、お悩みなどを事前にメールにてお送り下さい（200字以内）。

宛先：[mkimura★obirin.ac.jp](mailto:mkimura@obirin.ac.jp) 〆切：8月20日

★を@に変更してメール送信してください。

¹ 木村充子・相澤千枝子・赤津裕子・東ゆかり・今川恭子・大西頼子・岡澤陽子・斉木美紀子・新開よしみ・杉原真晃・長井覚子・村上康子・山原麻紀子・山本直樹・吉永早苗（2016）「領域『表現』をめぐる養成校の現状と課題—シラバス分析の報告—」保育教諭養成課程研究会第3回研究大会 ポスター発表
 領域「表現」に該当する科目のシラバスを調査し、当該科目の学習内容、授業担当者の人数およびその専門領域について分析、検討を行った。

アイリッシュ音楽とダンスのゆうべ

バウロン	伊原 小百合(東京藝術大学大学院生)
ブズーキ	岡 皆実(東京藝術大学)
フィドル	権藤 英美里(順天堂大学大学院生)
アコーディオン・うた	服部 阿裕未(ベルカント音楽学院)

1. アイルランド音楽について

北大西洋に浮かぶアイルランド島。この場所で古くから、人々は音楽と踊りに親しんできました。最近では日本でも、映画「タイタニック」がブームの火付け役となり、アイルランド音楽が親しまれています。一般に「ケルト音楽」という言葉で括られることの多いアイルランド音楽ですが、「ケルト」という言葉は、アイルランドやスコットランド、フランスのブルターニュ地方、スペインのガリシア地方などの文化圏を総称するもので、ケルト音楽と一口にいても幅広いことがわかります。今回演奏するのは、アイルランドに伝わる伝統音楽です。

アイルランド伝統音楽は、一曲が非常に短い旋律でできており、それらを繰り返したり繋ぎ合わせたりして一つのセットとして演奏する特徴があります。そのため、繰り返して演奏する際には違った装飾を加えたり、別のコードを合わせたりしながら演奏する工夫が求められます。

それぞれの曲の種類はリズムパターンで分類することができ、代表的なものに2拍子系のJigやReel, テンポの速いPolka, 3拍子系のSlip Jigなどがあります。また口頭伝承のため、基本的には楽譜を用いません。

2. アイリッシュダンスについて

今回は、ダンスの伴奏音楽として用いられている

ものを中心に演奏します。アイリッシュダンスという響きから最初にイメージするものは、上半身をほとんど動かさず足のみで踊るタップダンスですが、その他にもケーリーダンスやセットダンスなど、大勢の人たちと一緒に踊るフォークダンスのようなものもあります。またケーリー(Ceili)には、アイルランドの言葉で「ダンスと音楽の集い」という意味があり、音楽やダンスのパーティーをケーリーと呼び、アイルランドでは小さな子どもからお年寄りまでが一緒になって、こうしたダンスパーティーに参加しています。

3. 内容

おぼろ月夜の館にて、懇親会開催中(2日目夜)にアイルランド伝統音楽の演奏を行います。「伝統音楽」といっても、お酒を片手に楽しんでいただくような雰囲気の良い音楽です。飲みながら食べながら、そしてお喋りしながら楽しんでいただければと思います。今回は、フィドル、ボタンアコーディオン、ブズーキ、バウロンを主に使って演奏致します。また、アイルランドのセットダンスの一部を皆様に体験していただきます。それほど激しい動きではありませんので、どうぞ普段着でご参加ください。

掛け合い歌であそぼう with 野沢温泉小学校1年の児童のみなさん

授業者：永井民子（小千谷市立片貝小学校） 掛川由加子（野沢温泉村立野沢温泉小学校）
企画：伊野義博（新潟大学） 明道春奈（大淀町立大淀希望ヶ丘小学校）
中村正之（新潟大学教育学部附属長岡中学校） 吉村智宏（長岡市立表町小学校）
意見交換会進行：権藤敦子（広島大学） 協力：野沢温泉村立野沢温泉小学校

野沢温泉小学校の多大なるご理解とご協力を得て実現した 児童と参加者と小学校によるワークショップ!!

歌で会話ができれば素敵だと思いませんか。野沢温泉小学校の子どもたちと一緒に歌をつくって掛け合いを楽しみます。歌の掛け合いは、既成の歌の表現とどのように違うのでしょうか。子どもたちの中にはどんな変化が生まれるのでしょうか。授業後には、掛け合うことで拓かれる新たな可能性について、意見交換を行いたいと思います。

1. 趣旨

「おかあさん。」「なあに。」に見られるように、互いに声を掛け合い、会話をすることはとても自然なことで、言葉の抑揚や息づかいが生かされ、また、その時の気持ちが込められて、すでにとても音楽的です。これらは、《あんだがたどこさ》のような歌の掛け合いの世界につながっていきます。また、古事記や記紀の相聞歌や各地の盆踊り唄、秋田の掛唄やブータンのツァンモなど、日本やアジアでは豊かな掛け合い歌の文化が展開されてきました。

時に即興も交えて、自分の思いを相手に伝え掛け合う歌のコミュニケーションは、既成の楽曲の表現を工夫し、技能を獲得して美しく再現する歌唱行為とは異なる能力が要求されます。ワークショップを通して、学校で「歌うこと」を学ぶ意味や、「歌うこと」を通して育まれる資質・能力の幅を広げる可能性について考えます。

2. 内容

1)前半：授業（野沢温泉小学校の児童とともに）

前半は、「うたでおはなし〜かけあいうたであそぼ

う」を題材とした音楽の授業を行い、野沢温泉小学校1年生の児童とともに、掛け合い歌を楽しみます。

「呼びかけとこたえ」を活用し、《あんだがたどこさ》で自己紹介をしたり、《うさぎ》で会話をしたりします。

2)後半：発表と意見交換

後半は、まず、日本やブータンをはじめ、アジアの掛け合い歌について、調査・研究の結果をお知らせします。また、学校教育における実践例を紹介するとともに、成果と課題について検討します。

これらをもとに、参会者を交えた自由討論の時間を設定します。音楽教育における双方向的な歌唱行為の可能性、学校教育における「歌うこと」の捉え直し等について、意見交換をしたいと思っています。

3. お願い

9時～9時30分受付（小学校入口）、室内履きをご用意いただき、徒歩でお越しください。授業時、写真・動画の撮影はお控えください。なお、授業の最後には、児童から参会者に歌の問いかけがあるかも知れません。その時はよろしくお願ひします。

音声分析勉強会 —Praatによる音声の分析を学ぶ—

鹿倉 由衣 (東京藝術大学)

志村洋子 (同志社大学赤ちゃん学研究センター)

市川 恵 (早稲田大学)

1.はじめに

時間と共に消えてしまう音をどのように記録し、分析するかは音楽教育研究におけるひとつの大きな課題です。

解決の選択肢の一つである音声可視化の方法について、一緒に学んでゆきましょう。

参加される皆さんは、ご自分のPCにソフトウェア(下記Praat)をダウンロードしてご持参ください。

2.内容

我々が確かに聴き取り感じることのできる歌声を評価する方法は印象評価も含めてさまざまありますが、ここでは可視化する方法のひとつを取り上げて学びたいと思います。使用するソフトウェアは、世界中で広く使われている音声分析のソフトウェアPraatで、その基本的な使い方、解析結果の見方を中心に学んでいきます。

Praatは、音声学における音声分析用のフリーソフトです。アムステルダム大学のPaul BoersmaとDavid Weeninkの両名を中心として開発されたものです。

(HP: <http://www.fon.hum.uva.nl/praat/>)

3.当日ご持参いただくもの、事前の準備等

下記、①②のご準備をお願いします。

①ソフトウェアPraatをインストール済のラップトップ

Praatを上記ホームページから必ずインストールしてきてください。Praatのダウンロードと基本操作はWeb上に多数の解説があります。日本語でわかりやすい解説の例としては下記があげられます。

宇都木昭研究室: Praat入門

(<https://sites.google.com/site/utsakr/Home/praat/>)

②モノラル音声での母音「アイウエオ」

各自で母音「アイウエオ」を一音ずつはっきり発音して発声したものを録音し、音声は

ステレオからモノラルに変換してWAVで保存し持参ください。収録した音声データのフォーマットがわからない、変換方法などがわからない場合、またインストールの方法がわからないなどの場合はご相談ください。

4.スペクトルの例

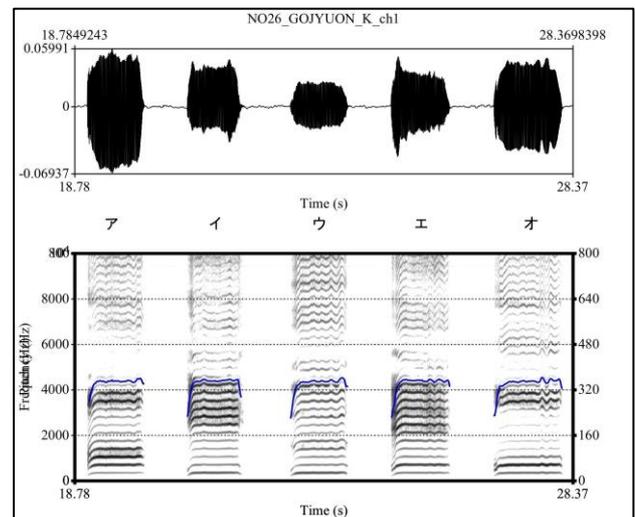


図 母音アイウエオのスペクトログラムとピッチ
縦軸は周波数(Hz)、横軸は時間(sec.)を示す。周波数(Hz)の最大値は20,000 Hzで、狭帯域表示。上部グラフは音声波形で音量を示す。

図1は、母音アイウエオを1音ずつ区切り通常の話し声で発音したものです。

今回は、母音のスペクトルや特徴的な子音のスペクトルを学び、個人個人の比較や発声法による様相の違いを見ることを通して、音声を可視化する基本的な手順と操作、分析結果の見方について学びます。また、ピッチの抽出の仕方やタイミングの見方など、歌唱音声の分析に必要な基本的な操作と留意事項についても解説します。

5.問い合わせ

Praatのダウンロード、音声データの準備等に関しては下記にご相談ください。

鹿倉由衣 (東京藝術大学)

shikakura.yui@ms.geidai.ac.jp

★を@に変更してメール送信してください。

学会誌に投稿しよう！その前に…

情報提供：乙部はるひ（帝京平成大学）

清水 稔（東京学芸大学大学院生）

須田 珠生（京都大学大学院生）

コメンテーター：小川 容子（岡山大学）

企画・進行：有本 真紀（立教大学）

1. 企画の趣旨と内容

会員のみなさまにとって、学会誌を開いただけでは、そこに載っている論文や報告が、どのような道筋を経て掲載されているのか、なかなかイメージしづらいかもしれません。論文の書き方を指南する書籍も数多く出ていますが、それを読めば投稿意欲が湧いてくるというものでもありません。

そこで、最近の『音楽教育学』に掲載された3人の論文執筆者の方に、研究の発端から投稿の準備、さらに掲載に至るまでの経過を、編集委員会とのやりとりや、その感想も含めてざっくばらんに語っていただきます。また、どんなことがNG？何に注意すればいいの？など、投稿前のチェックポイントについても具体的に情報交換します。ご質問には、コメンテーター、企画者からもお答えします。ラウンドテーブルですから、参加者はどなたでも自由に発言できます。ご自身の研究を題材に、「この研究のここをどうしたらよいでしょう？」「私はこういうことで困っているのですが、みなさんはどうなさっていますか？」といった疑問や課題を共有し、投稿へ向けてのステップアップを目指します。『音楽教育実践ジャーナル』への投稿についても同様です。

これまで学会誌投稿をあまり意識されていなかった方、投稿してみたいので具体的な情報が欲しいなという方、指導生に投稿を促そうとお考えの先生方、ぜひご参加ください。テーブルを囲む全員が、学術

的な文章を書く同じ立場の者として、交流したいと思います。

2. 参加にあたっての準備

①事前に、『音楽教育学』第46巻に掲載されている以下3編の論文を読んで、それぞれへの質問項目を考えてください。内容にかかわる質問でもかまいませんが、主に論文作成のプロセスに関する質問をお寄せください。

- ・乙部はるひ「5歳児の協同的な合奏づくりの検討—幼保小接続の視点から—」（第1号, pp. 1-12）
- ・須田珠生「学校校歌作成意図の解明—東京音楽学校への校歌作成依頼状に着目して—」（第2号, pp. 1-12）
- ・清水稔「学校教育で音楽をつくることの再認識—音楽は自己のイメージから生成しない—」（第2号, pp. 25-36）。

②コメンテーター、企画者を含め、他の参加者に聞いてみたいことをお寄せ下さい。特に、ご自身の研究を文章にする上で感じておられる、迷いや疑問を歓迎いたします。

①②は、8月25日(金)までに、下記のアドレス宛てにお送りください。書式や分量は問いませんが、メールのタイトルは【野沢学会誌】とし、メール本文冒頭にご所属と氏名を明記してください。

送信先アドレス：arimaki★rikkyo.ac.jp

★を@に変更してメール送信してください。

実行委員：有本真紀・石川眞佐江・市川 恵・伊原小百合・今川恭子・
加藤富美子・木村充子・桐原 礼・小井塚ななえ・小佐川心子・
権藤敦子・鹿倉由衣・長井覚子・早川倫子・村上康子